

豆類施設が完成 貯留調製と低温貯蔵 J Aおとふけ

2018年5月30日

【音更】J Aおとふけ（笠井安弘組合長）が町新通北1の農産センターに建設を進めていた豆類貯留調製施設と低温貯蔵施設が完成し、30日午前、現地で竣工（しゅんこう）式が行われた。農林水産省の「産地パワーアップ事業」の補助金対象事業で、豆類の施設としては管内J Aでは最大規模。



あいさつする
笠井組合長

国産大豆の需要拡大に伴い、増加傾向にある町内の大豆生産に対応する。

貯留調製施設は延べ床面積3900平方メートル。主に町内農家で生産された大豆の乾燥や選別、包装などを機械化したラインで一括して行う。貯蔵施設は同2229平方メートル。貯蔵能力は1800トン。両施設とも鉄骨造り。

総工事費は約39億550万円で、このうち国の補助金は17億6700万円（2016年度補正）。貯留調製施設は17年4月、低温貯蔵施設は同7月に着工した。施工監理はホクレン、施工は貯留調製施設が北斗工機（札幌）、低温貯蔵施設が宮坂建設工業（帯広）。

関係者約50人が集まり、神事にのっとり竣工式が行われ、貯留調製施設では笠井組合長がスイッチを押して、施設が稼働した。

この後、なおらいが行われ、笠井組合長が「組合員が

生産した豆をユーザーに確実に供給できる体制が出来上がった。1年間という短期間で施設が完成した。工事関係者に感謝したい」と述べた。

同J Aによると、17年度産大豆の受け入れ量（白目大豆、光黒大豆、音更大袖振大豆）は約4400トン。約350戸が約2000ヘクタールを作付けした。



完成した豆類貯留調製施設（奥）と低温貯蔵施設（右手前）

J Aめむろ初の300億円 好調の耕種押し上げ 17年度粗生産高

2018年6月16日

【芽室】J Aめむろ（辻勇組合長、正組合員1840個人・法人）の第27回通常総会が15日、町健康プラザで開かれた。2017年度の農業粗生産額は前年度比24%増の314億9079万円で初めて300億円を突破した。総会後に開かれた理事会では辻組合長を再任した。任期は3年。



あいさつする辻組合長

めむろの粗生産額は管内でJ A士幌町に次ぐ規模。耕種部門が44%増の212億343万円、畜産部門が同4%減の102億8736万円。多くの作物で平年の収量を大きく上回り、農産販売総取扱高は同22%増の154億8492万円となった。畜産販売総取扱高は4.2%減の95億2022万円。経常利益は6億5125万円、当期剰余金は6億2801万円。

総会には委任状、書面議決を含め1488人が出席。辻組合長はあいさつで「史上最高の粗生産額は組合員の皆さんの営農努力のたまもの。（おととしの）台風被害で流失した町内の農地も6月末で復旧を終える。地力増進に取り組み元の農地として活用できるよう取り組んでいきたい」と述べた。